

## (11) 沖縄



沖縄地域では、景気は回復している。

- ・ 観光は堅調に増加している。
- ・ 個人消費は緩やかに回復している。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

### 前回調査からの主要変更点

	前回（平成 18 年 2 月）	今回（平成 18 年 5 月）	
景況判断	緩やかに回復している	回復している	
個人消費	持ち直している	緩やかに回復している	

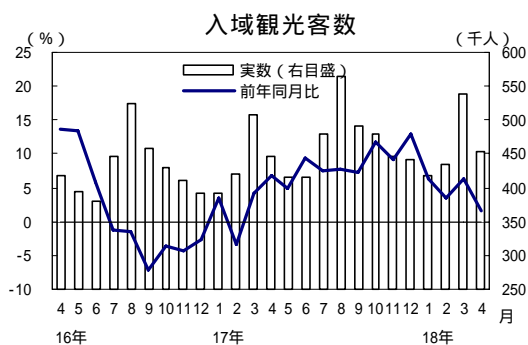
### 1. 観光及び企業動向

#### (1) 観光は堅調に増加している。

入域観光客数は、1月は、航空路線の増便や使用機材の大型化による提供座席数の増加、離島直行便の輸送実績が好調だったことなどから前年を上回った。2月は、神戸空港開港に伴い新規路線が開設されたことや、プロ野球キャンプの誘客効果などから前年を上回った。3月は、神戸新規路線などが引き続き好調であることや、新北九州空港開港に伴う新規路線が開設されたことなどから前年を上回った。4月は、新規路線及び修学旅行が順調なことから前年を上回った。

なお、1、3、4月は過去最高、2月も過去2番目を記録し、引き続き高い水準で推移している。

1～3月期における主要ホテルの客室稼働率については、入域観光客数の増加を背景に、リゾートホテルが好調だったことから、全体でも前年を上回った。



#### 入域観光客数等の動向

(単位：千人、%)

	17年4-6月	7-9月	10-12月	18年1-3月
入域観光客数	1,278	1,534	1,368	1,392
(前年比)	6.9	7.5	11.3	5.4
ホテル稼働率(前年差)	2.0	2.7	5.8	2.6

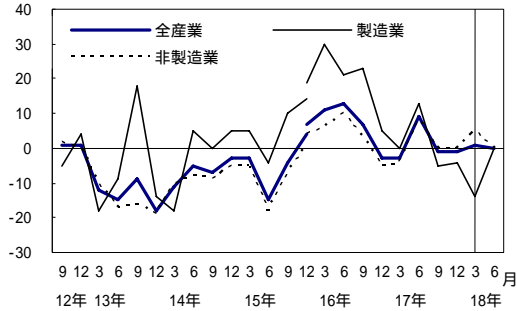
(備考) 1. 入域観光客数は沖縄県観光商工部調べ。

2. ホテル稼働率は日本銀行那覇支店調べ。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超に、資金繰り判断は「苦しい」超に転じている。

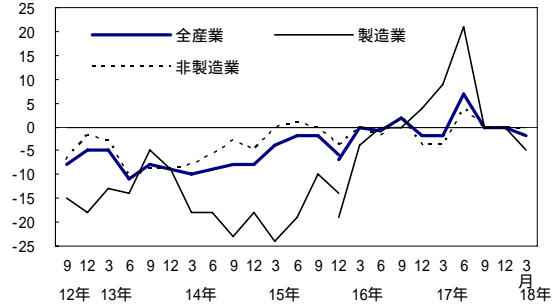
### 企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



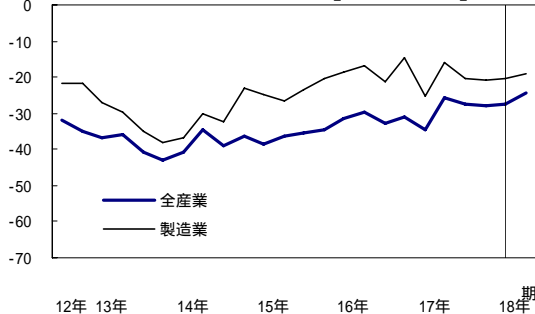
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。18年6月は予測。  
15年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
15年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。18年 期は見通し。  
九州地区のD.I.

### 景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

「提携企業の合併に伴う企業間調整が長引き、出し控えをしているのか具体的な案件引き合いが減少している。一方、超高速回線の引き合いが複数出てきている。件数では前月並みである(通信業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 17年度の設備投資は前年度を下回る見込みとなっている。

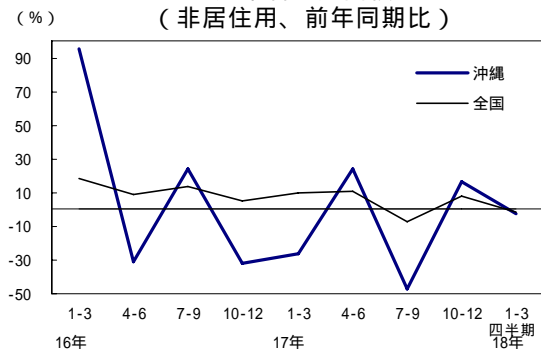
企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

(前年度比、%)

	17年度実績見込み	18年度計画
全産業	21.9( 5.5)	3.9
製造業	28.2( 2.3)	35.5
非製造業	27.0( 6.0)	11.0

(備考)( )は前回(12月)調査比修正率。石油・電力を除く。

建築着工床面積  
(非居住用、前年同期比)



## 2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに回復している。

百貨店販売額、スーパー売上高、家電卸出荷額及びコンビニエンスストア販売額

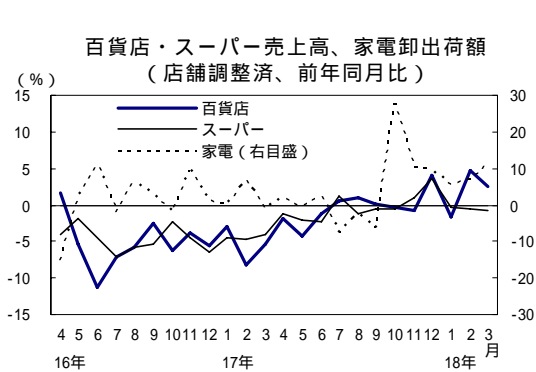
百貨店は、1月は、気温上昇の影響により冬物衣料品が不調だったことから、前年を下回った。2月は、販売戦略の奏効等により客足が持ち直しつつあり、衣料品が好調だったことから、2か月振りに前年を上回った。3月は、引き続き衣料品が好調だったことから、全体では2か月連続で前年を上回った。

スーパーは、正価販売を重視した販売戦略を取っているが、1月に気温上昇の影響で冬物衣料品が不調だったことから前年を下回った。

家電は、大型量販店が新規出店したことや、大型液晶・プラズマテレビやDVDレコーダー等の売行きが好調だったことから前年を上回った。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

「新商品において、お試し期間中の特価では好調に動くが、通常価格に戻ると止まる。特価のような目玉商品で売上の底上げを狙うが、単価の低下を補う販売数には達しない(コンビニ)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



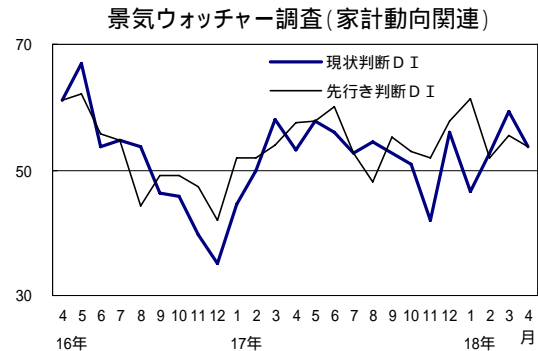
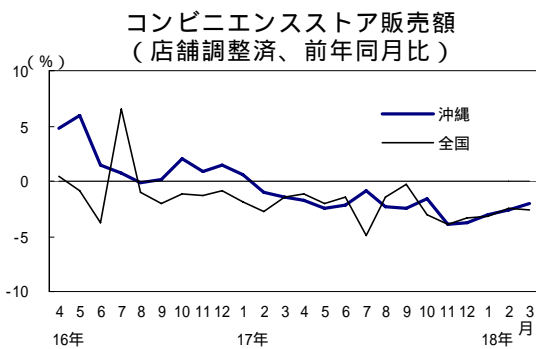
(前年同期比、%)

	17年4-6月	7-9月	10-12月	18年1-3月
百貨店	2.5	0.6	1.4	1.7
スーパー	1.9	0.2	1.5	0.6
家電卸出荷額	1.2	5.7	15.1	8.3
コンビニ	2.2	1.9	3.1	2.6
景気ウォッチャー	55.7	53.3	49.7	52.9

(備考) 1. 百貨店、家電は沖縄銀行調べ。

2. スーパー、コンビニは日本銀行那覇支店調べ。店舗調整済。

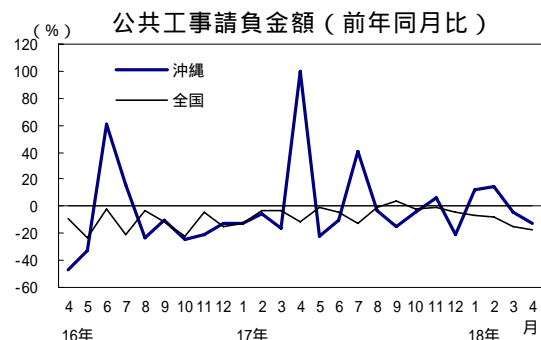
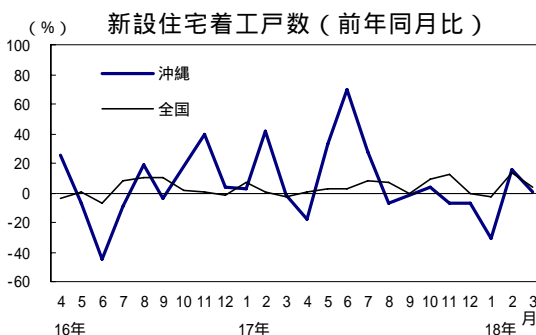
3. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は減少している。

分譲、貸家、持家が前年を下回ったことから、全体でも減少している。

(3) 公共投資は17年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

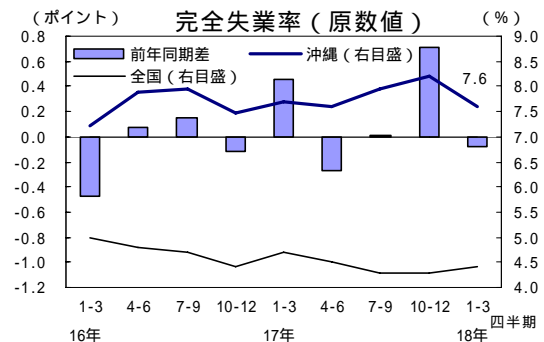
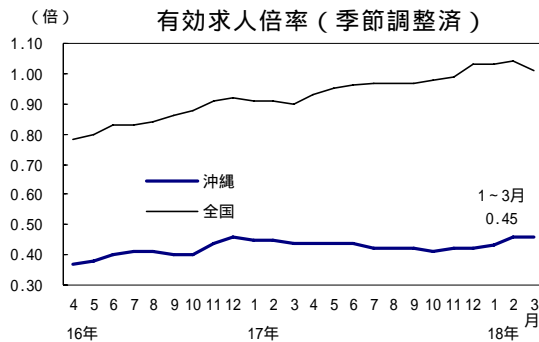


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期と同水準となっている。



景気ウォッチャー調査 (4月) [雇用関連 (現状)]

「最近の傾向で特定職種は相変わらず求人・派遣依頼が続いているが、それ以外は目立った変化は無い。求職者は若干増えている (人材派遣会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

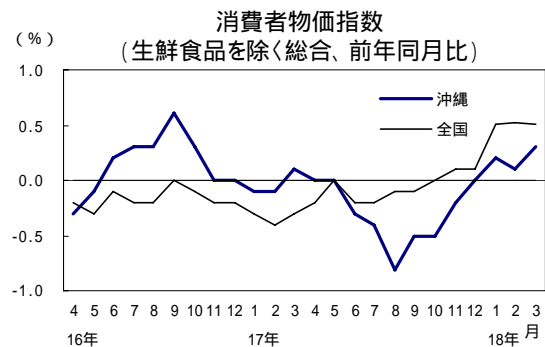
(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

4月に負債総額が大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は上昇に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	17年4-6月	7-9月	10-12月	18年1-3月	18年4月
倒産件数	22	21	19	14	4
(前年比)	10.0	16.0	5.0	22.2	20.0
負債総額	190	278	36	56	12
(前年比)	276.7	209.9	97.5	20.4	503.2



景気ウォッチャー調査 (4月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・携帯電話は価格よりも機能を重視する傾向がみられ客単価が上昇している (通信会社)

<先行き>

・5月の県外からのインターネット予約が前年同月比で150%あり、観光客の入客が期待できる (その他飲食[居酒屋])

